

<b>1 学校教育目標</b> 『21世紀を生きる力』を育む子ども 自ら学び高め合う、たくましく心豊かな外町っ子を育てます！	<b>2 本年度の重点目標</b> 【学力向上】 ・カリキュラム改善 ・アクティブラーニング、活用型授業の推進 ・英語科・道徳の研究推進 ・本に親しむ環境づくり ・家庭学習の充実 【特別支援教育の充実】 ・個に応じた指導と支援体制の充実 ・保護者や専門機関との連携 ・特別支援学級や通級指導教室の活用 【豊かな心の育成】 ・三つの生活習慣確立 ・(あいさつ・そうじ・廊下歩行) ・支持的風土に基づく学級経営 ・心の教育の充実 ・ボランティア活動や地域教材の充実 【健康増進・体力向上】 ・体つりの奨励 ・健康増進への意識の高揚 ・食育の推進 ・安全安心な給食運営 【進捗活動の推進】 ・五中校区連携三部会の活動推進 ・外町ボランティアを核とする地域との連携 ・保護者・家庭と連携した家庭生活習慣の確立
--	---

**3 目標・評価**

**① 学力向上の推進**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える児童90%以上	・教科や学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	特活部	田中
		・カリキュラム改善とアクティブラーニング、活用型授業の推進及び英語科・道徳の研究推進	・授業において主体的な学びにつながる課題設定を行う。 ・外国語指導助手とのチーム・ティーチングの他、担任のみの授業を行い、児童が外国語に慣れ親しむことができる授業を行う。 ・1年に少なくとも1回全教員が指導案に基づいた研究授業を行い、個々の授業力及び学校全体の教育力を高める。 ・全国や県の学習状況調査結果から課題を明らかにし、授業改善につなげることで、次回の調査では3～5ポイントを上回る。 ・五中校区で連携して、活用力向上を目指した授業づくりに努める。	・話し合いに関するマニュアルを見直し全教科への汎用性を高める。 ・校内研修の年間計画に研究授業を位置づけ、実践する。 ・校外での研修に積極的に参加できる校内体制を整備する。 ・夏季休業中に、学習状況調査を活用した研修を行う。 ・「すくすくタイム」で基礎・基本をしっかりと身につける。単元ごとのテスト、補充のサイクルを確立する。 ・5・6年生で放課後に「学びタイム」を設定し、基礎学力の定着を図る。 ・国語、算数を中心に活用力向上を意識した単元づくり、課題設定の工夫を図る。	学習部	谷口真 西 本田
	●学力の向上	・本に親しむ環境づくり	・児童にとって利用しやすい図書館とし、図書館利用率の5ポイント向上を目指す。	・図書館の本の配列を工夫したり、昼休みを利用しての読み聞かせ会を実施したりと、児童が楽しめる図書館の環境作りを行う。	学習部	池田美 富樹
	・家庭学習の充実	・宿題の提出100%をめざす。 ・主体的な学習態度を身につけさせるために、自主学習を推進する。 ・「家庭学習のすすめ」をもとに家庭での学習習慣を身につけさせる。	・宿題をきちんとしているかを保護者に確認してもらうための「家庭学習振り返りカード」を活用する。 ・自学ノートを推進し、頑張っている児童の学習内容を紹介したり、ノートの写しを掲示したりする。 ・「家庭学習のすすめ」を全家庭に配布し、家庭と連携して充実を図る。	学習部	谷口真	

**② 豊かな心の育成**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育	・三つの生活習慣の確立(あいさつ・そうじ廊下歩行) ・支持的風土にもとづく学級経営 ・心の教育の充実 ・人権・同和教育の充実 ・ボランティア活動の推進	・すすんで朝のあいさつができる児童90%以上をめざす。 ・掃除の徹底。 ・支持的風土にもとづく学級作りのため、「やさしい言葉」や「さん・君」をつけて呼べる児童90%以上をめざす。 ・道徳の時間の充実や体験活動・ボランティア活動への取り組みを通じて、豊かな心を育てる。 ・地域や保護者へ道徳の授業を公開する。 ・人権集会や人権教室を実施し、人権意識が高まったという児童の割合を90%以上にする。 ・ボランティア活動への取組を通してボランティア精神の醸成を図る	・毎朝のあいさつシャワー隊の活動を継続し、あいさつ運動を進める。 ・無言掃除を実施するとともに、職員も一緒に掃除を行い、掃除指導を行う。 ・QUテストを実施し、結果を分析し学級経営に生かす。 ・唐津市教育の日を含めた参観日に、1回以上道徳の授業を公開する。 ・祖父母参観を実施し、ふれあい交流を行う。 ・人権集会を年間2回行ったり、人権教室を開催したりして、人権意識を養う。 ・ボランティア委員会を中心に、ボランティア活動を推進する。また、総合的な学習の時間で「福祉」の学習を行う。	生活部 人権・同 和教育担 当	諸岡 池田克
		・異年齢集団による思いやりの心の醸成	・縦割り班活動を行い、異学年との交流を積極的に行い、思いやりの心が高まったという児童の割合を90%以上にする。	・運動会の応援に関わる活動を行い、異学年間での団結を図る。 ・年間5回(ショート3回、ロング2回)の縦割り遊びを実施し、他学年との交流を深める。	特活部	田中 坂本
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめ防止等の体制の構築 ・いじめに対する共通理解と取り組むための共通認識の獲得 ・いじめ未然防止・早期発見・早期対応	・いじめ防止対策の啓発を行う。 ・みんなでいじめを考える日「みじかな日」(毎月末)を設定し、いじめについての意識を高める。 ・いじめ問題に関する校内研修を行い、職員の実践力を高める。	・外町小いじめ防止基本方針を家庭へ配布し、取り組みの周知をする。 ・「みじかな日」に、いじめに関するアンケートを実施し、その結果を学年や学校全体で共有する時間を設定する。 ・5月と12月をいじめ防止月間とし、人権集会を中心にいじめ防止に関する取り組みを行う。 ・年間3回いじめに関する研修会を実施する。	生活部	中野

**③ 特別支援教育の充実**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	○特別支援教育	・個別支援が必要な児童への支援体制の確立 ・特別支援教育の充実	・特別支援教育に関する職員研修を年間5日以上行い、一人一人を大切に指導の重要性について全職員の共通理解を図り、支援体制を確立するとともに、専門性の向上を感じる教師の割合を80%以上にする。 ・児童に応じた指導計画、支援計画を作成し、一人一人に必要な指導や支援を行う。	・週に1回の「子どもタイム」で情報の共有を図る。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に校内支援委員会やスクールカウンセラーが連携し、担任や保護者のサポート体制を確立する。 ・校内教育支援委員会や特別支援教育に関する研修会を定期的に行い、全職員の共通理解を図る。 ・特別支援学級や通級指導教室に関する環境整備を行い、指導の充実を図る。 ・児童の観察や保護者との連携を密に行い、必要な指導を適切に行う。	教育相談	牟田口 諸岡 池田 岡本 古館 福山 清水

**④ 健康増進・体力向上**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	・手洗い、うがい、歯磨き指導の徹底	・感染症の拡大防止に努める。 ・う歯の罹患率を下げる取り組みを行う。	・感染症流行期には、手洗い、うがい、換気を校内放送で呼びかけるとともに保健便りで感染症予防の方策を家庭へも伝える。また、児童用の配列にも工夫する。 ・全校児童対象にしたブラッシング指導を行う。その後歯磨きカレンダーを活用し、ブラッシングの定着を図る。	保健	谷口節
		・食育の推進	・食事マナーの向上(箸の持ち方、姿勢) ・食事に興味を持ち、偏食を少なくし、昨年より残菜を減らす。	・箸の使い方の練習スペースを作り、掲示物などを活用して正しい箸の持ち方を身につけさせる。 ・校内放送での給食ニュースや各教室での声かけを行う。	食育	石井
		・体力の向上	・運動に親しむ環境づくりを行う。	・体育委員会によるチャレンジコーナーやジョギングタイムを設定するとともに、「さがんキッズスポーツチャレンジ」を推奨する。 ・長縄や竹馬など、児童の活動意欲を高めるための場や道具を準備する。	保体部	松延
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務等の効率化の促進	・教材作成や個々の研修の共有化を図ることで、時間外勤務を短縮する。	・研修に係る会議を時間内に終了させるとともに、毎週金曜日を定時退勤推進日と定める。 ・19:00までに退勤の励行	管理	杉原

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目